

# PRESIDENT'S MESSAGE

RI会長メッセージ

RI指定記事

## 運ではなく、準備こそが力

少し前のことです。ナイジェリア南西部のアイエ村にある小さな医療施設に、双子を妊娠した女性が、陣痛が始まった状態で到着しました。施設は人手不足で、担当の助産師は不在でした。

その時、ためらうことなく対応に当たったのが、ロータリー財団の大規模プログラム補助金による取り組み「ナイジェリアの家族の健康のための協力」に参加していた地域ヘルスワーカーでした。彼女は正式な助産師ではありませんでしたが、緊急産科に不可欠なスキルを研修で身に付けていました。

数時間にわたる対応の末、双子は無事に誕生しました。一人はその施設で、もう一人は合併症が迅速に確認され、搬送された総合病院で生まれました。的確な判断と連携により、母子共に命を守ることができました。

世界各地で、多くの女性が同じような状況に直面しています。生死を分けるのは、十分な訓練を受けた医療スタッフの存在と、信頼できる医療体制や手順が整っているかどうかです。

「ナイジェリアの家族の健康のための協力」は、こうした状況に希望をもたらすための取り組みです。保健医療体制を強化し、最前線で活動する人々を育成することで、どのような困難な状況下でも地域社会が母子を守れるよう支援しています。

この活動は、ロータリーの奉仕の神髄を体現しています。奉仕とは、理想的な環境が整ったときにだけ行うものではありません。システムが逼迫し、リソースが限られ、緊急のニーズが生じたときにこそ求められるものです。それこそが、危機が訪れる前から準備を、危機が起きたときには地域社会と共に立つという決意です。

母子の健康は、抽象的な目標ではありません。極めて個人的で、切実な課題です。出産を生き抜いた母親、産声を上げる新生児、健やかな家族。これらは訓練を受け、備えを整え、行動する意志を持った誰かがいたからこそ存在するのです。ロータリーは、奉仕とは、試練に直面するずっと前から人と仕組みに投資することだと理解しています。

「ナイジェリアの家族の健康のための協力」のようなプログラムは、地域の知見、国際的なパートナーシップ、そして持続可能な解決策が結び付いたときに何が可能になるかを示しています。医療従事者や地域のリーダーと協働することで、命を守る医療が運や住む場所によって左右されない社会の実現を後押ししています。

冒頭の母親と双子の物語は、本質的に奉仕の物語です。人が最も弱い立場に置かれたとき、誰かが一歩前に出て支える。その人間的な瞬間にこそ、ロータリーの真のインパクトがあります。

私たちが「よいことのために手を取りあう」とき、奉仕は単なる理想を超えます。それは家族にとっての命綱となり、地域社会にとっての力の源となり、そして最も支援を必要とする場所へこれからも歩み続けるという、ロータリーの約束となるのです。

フランチェスコ・アレッツォ

2025-26年度 国際ロータリー (RI) 会長